

銀行名	青森銀行												
タイトル	青函活性化ファンドの組成による企業支援												
取組み内容	<p>1. 経緯</p> <p>平成27年度末に予定している北海道新幹線開業を控え、本州と北海道をつなぐ有力な玄関となる青函地区の活性化に向け、同地区の活性化あるいは同地区の発展に資する企業、事業を支援することを目的に、当行と北洋銀行、北洋銀行のファンド運営子会社である株式会社北洋キャピタル、および(株)地域経済活性化支援機構のファンド運営子会社である REVIC キャピタル(株)が連携して、官民連携ファンドである「青函活性化ファンド(名称:青函活性化投資事業有限責任組合)」を設立。</p> <p>2. ファンド概要</p> <table border="1" data-bbox="507 808 1414 1384"> <tr> <td>名称</td> <td>青函活性化投資事業有限責任組合 (青函活性化ファンド)</td> </tr> <tr> <td>ファンド総額</td> <td>上限2億円</td> </tr> <tr> <td>組合員構成</td> <td>【無限責任組合員】 株式会社北洋キャピタル REVIC キャピタル株式会社 【有限責任組合員】 株式会社青森銀行 株式会社北洋銀行</td> </tr> <tr> <td>設立日</td> <td>平成26年5月26日</td> </tr> <tr> <td>存続期間</td> <td>平成33年3月31日まで(最大1年間延長可能)</td> </tr> <tr> <td>業務運営者</td> <td>(株)北洋キャピタル REVIC キャピタル(株)</td> </tr> </table> <p>3. 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンドの第1号案件として函館市の飲食業へ投資。 ・同社は独自のレトルトカレーで有名だが、最近は青森産りんごを利用したロールケーキを開発するなど、青森産原料を利用した商品開発を積極的に行なっている。今回の投資はこのロールケーキの販路拡大のための冷凍機導入、本店内売店の拡大等の設備投資に充当され、企業の成長につながるもの。 ・引き続き、本ファンドを活用した地域企業の成長支援を実施していくもの。 	名称	青函活性化投資事業有限責任組合 (青函活性化ファンド)	ファンド総額	上限2億円	組合員構成	【無限責任組合員】 株式会社北洋キャピタル REVIC キャピタル株式会社 【有限責任組合員】 株式会社青森銀行 株式会社北洋銀行	設立日	平成26年5月26日	存続期間	平成33年3月31日まで(最大1年間延長可能)	業務運営者	(株)北洋キャピタル REVIC キャピタル(株)
名称	青函活性化投資事業有限責任組合 (青函活性化ファンド)												
ファンド総額	上限2億円												
組合員構成	【無限責任組合員】 株式会社北洋キャピタル REVIC キャピタル株式会社 【有限責任組合員】 株式会社青森銀行 株式会社北洋銀行												
設立日	平成26年5月26日												
存続期間	平成33年3月31日まで(最大1年間延長可能)												
業務運営者	(株)北洋キャピタル REVIC キャピタル(株)												

銀行名	青森銀行
タイトル	「あおり藍」産業の育成に向けた支援
取組み内容	<p>1. 経緯</p> <p>青森県の藍を原料とした特産品の開発を目的とし、4社が出資し協同組合を設立。協同組合は大学等の協力を得て、従来の伝統的な技法とは異なる独自の藍染技法の開発に成功。</p> <p>当行では、今後の課題として、「あおり藍」の原材料確保や生産拡大、そして更なるブランド化が必要と認識し、地域企業、大学、研究機関、自治体との連携により、「あおり藍」産業の育成、高付加価値化に向けた産業の創出により、地域活性化につながるものと考え、取り組みに至ったもの。</p> <p>2. 支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あおり藍」の生産拡大に向けた勉強会の開催のサポート ・「あおり藍」の栽培体験研修（播種、定植、収穫）のサポート ・ブランドメーカーからの受注拡大に対応すべく、資金供給の支援を実施 ・県内企業とのビジネスマッチングによる新たな商品開発を支援 <p>3. 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産拡大に向けた勉強会や栽培体験研修には、農業者のほか、農業参入を検討している建設業者や医療介護事業者等の取引先が参加したことにより、生産を行う事業者の拡大が見込まれる。 ・上記活動が、マスコミや当県の広報誌に取り上げられるなど、認知度の向上に寄与。 ・様々な利活用が見込まれることから、ビジネスマッチングによる県内食品業者との新商品開発が検討されている。

《 あおもり藍の産業育成に向けた支援 》



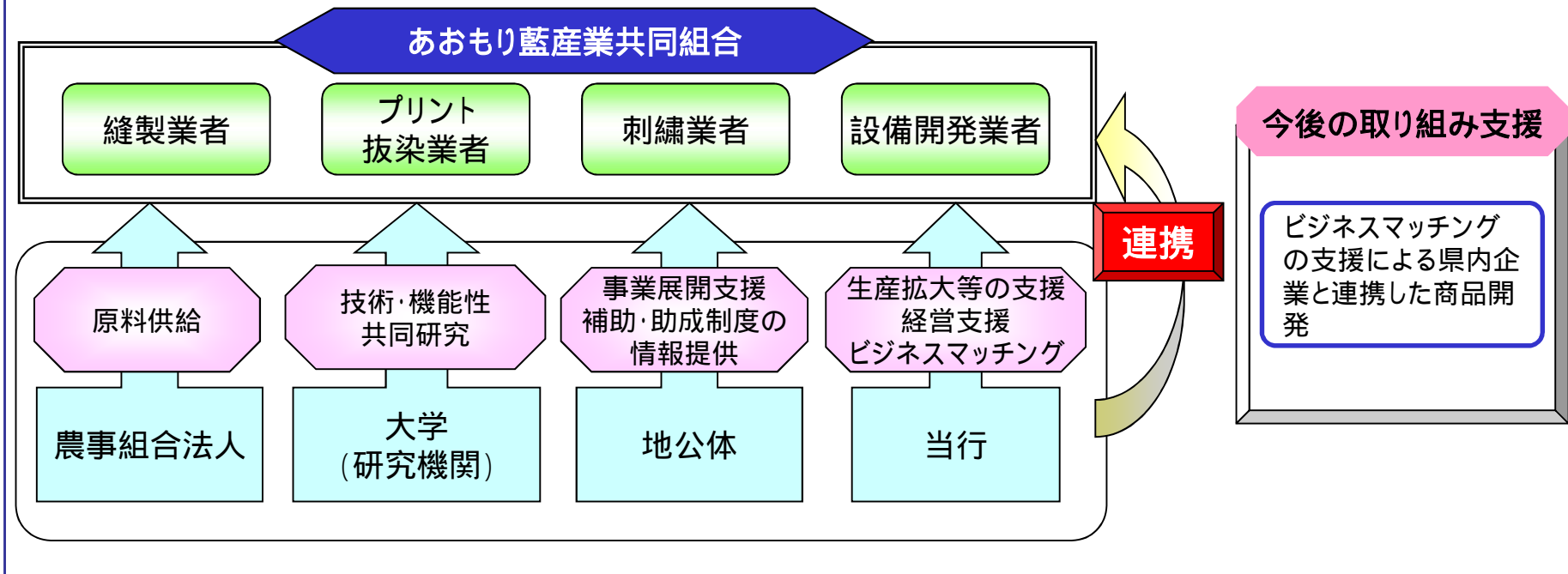
あおもり藍産業の育成、高付加価値化に向けた産業の創出を産学官金が連携して支援した事例。

【産】：あおもり藍の原料供給。

【学】：地元大学との技術、機能性の向上に向けた共同研究。

【官】：事業展開支援、補助・助成金制度の情報提供。

【金】：生産拡大・知名度向上に向けたあおもり藍の勉強会・栽培体験研修の開催支援、融資による経営支援、ビジネスマッチングによる連携商品の開発支援。



銀行名	青森銀行
タイトル	産直経営者、高校に対する連携の働きかけによる事業拡大機会の創出
取組み内容	<p>1. 経緯</p> <p>産直市場を経営し会員が生産する農作物の有効活用に向け、販売だけではなく、集客力および知名度の向上に向けた販路拡大が求められること、付加価値の高い加工品の販売強化による他地区の産直市場との差別化が必要であると考え、取り組みに至ったもの。</p> <p>2. 取組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お菓子作りでマスコミに取り上げられた地元高校と連携した商品の開発に向け、当行から地元高校へ取り組みを依頼。 ・地元交通会社が主催するツアーへの産直市場の組み入れや、バス乗車客への割引券配布等、産直市場を活用した施策を提案中。 ・当行取引先の野菜加工会社とのビジネスマッチングを実施。 <p>3. 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校と連携した商品を開発し試験販売を実施。 ・当行取引先の規格外野菜の仕入ニーズとのビジネスマッチングを実施し、取引が決定したことから、産直市場の会員が生産する農作物の販路拡大を支援。 ・引き続き、6次産業化に向けたヒアリングや取り組みを通じて、事業拡大を支援し地域産業の活性化につなげていく。

《産直経営者、高校に対する連携の働きかけによる事業拡大機会の創出》

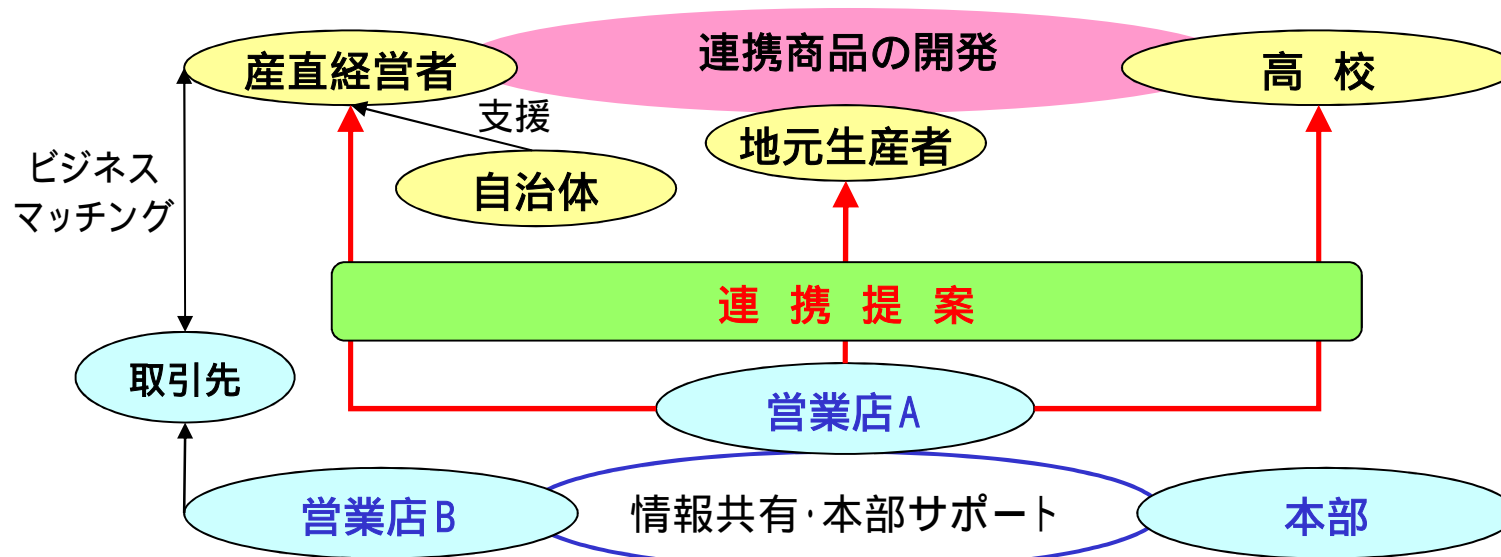
地域生産者の端物野菜を有効利用するため、生産者と地元高校生が加工品の共同開発に取り組み、生産者・高校・当行職員による数十に及ぶ加工品レシピを検討し、産直施設で販売に至った事例。

【産】：地元生産者約60名による原材料提供。

【学】：地元高校生の斬新なアイデアを取り入れた商品開発。

【官】：産直販売場所の提供。

【金】：当行は商品開発にオブザーバーとして参加し、加工品開発を支援。加えて、商品販売にあたっての産直施設の整備資金の供給、ならびに産直経営者への新たな取引先の紹介により販路拡大を支援。



銀行名	青森銀行
タイトル	「企業による環境再生の森づくり」への参画
取組み内容	<p>1. 経緯</p> <p>青森・岩手県境において行われた産業廃棄物の不法投棄事案に関し、青森県が策定した「青森・岩手県境不法投棄現場・環境再生計画」に基づく森林整備の取組みとして展開される「企業による環境再生の森づくり活動」に賛同し、森林整備事業への参画に至ったもの。</p> <p>2. 取組み内容</p> <p>平成 26 年度は約 2,500 m²の土地に対し 1,500 本の植樹を実施。 平成 27 年度も同規模の植樹を実施する。</p> <p>3. 成果</p> <p>青森県が策定した「青森・岩手県境不法投棄現場跡地森林整備計画」に基づき、不法投棄現場跡地への植樹による森林整備に参画することにより、不法投棄によって失われた自然環境の再生への貢献が図られた。</p> 